大阪

予備自衛官制度創設70周年記念事業
災害に立ち向かう予備自衛官の力と誇り

大阪地方協力本部所属の辻成佳（つじしげよし）予備2等陸佐と服部とも子予備3等陸曹は5月23日から27日の間、陸上自衛隊朝霞駐屯地などで行われた「予備自衛官制度創設70周年記念事業」の一環として予備自衛官中央訓練に参加しました。

辻予備2佐は医師としての経験を活かし、予備自衛官として社会に貢献したいとの思いから技能公募予備自衛官（医師）に任官しました。

今年1月に発生した能登半島地震における災害派遣活動にも従事した辻予備2佐は、今回の記念事業での講話で「災害派遣経験談」と「予備自衛官としての思い」について熱く語りました。

また、予備自衛官として20年の勤続年数を持つ服部予備3曹は、森下泰臣陸上幕僚長から永年勤続者表彰を受けました。

服部予備3曹は「気が引き締まる思いです。今後も家庭、仕事と予備自衛官の両立を図り、頑張っていきます！」と意気込みを語りました。

この事業では、雇用企業主に対しても予備自衛官総合訓練や富士総合火力演習の研修、記念祝賀会が行われました。

辻予備2佐が勤務する日本生命病院の三木理事長は「日本生命病院は『済生利民（さいせいりみん）』を理念とし、地域・社会に貢献することを目標に掲げています。当院の医師が予備自衛官として能登半島地震の災害派遣活動に参加し、被災地の方々をサポートできたことは大変誇りに思います」と述べました。

森下陸幕長と懇談する三木理事長（左）と辻2佐（中央）

表彰を受ける服部予備3曹

神奈川

横浜開港祭で自衛隊の魅力をアピール
艦艇一般公開と多彩なイベントで大盛況

神奈川地方協力本部は6月1日と2日の両日、第43回横浜開港祭に参加し、海上自衛隊の護衛艦「ゆうぎり」の一般公開を行いました。横浜港大さん橋の会場では、陸上自衛隊第31普通科連隊による炊事車などの装備品展示や、陸上自衛隊高等工科学校の和太鼓部と吹奏楽部の演奏、さらに広報ブースの出展が行われました。神奈川地本キャラクター「はまにゃん」も人気を博し、来場者と写真撮影をするなど会場は大いに賑わいました。

初日は、護衛艦「ゆうぎり」の見学に募集対象者31人を招待。参加者たちは、間近で見る護衛艦の姿や艦橋から眺める横浜の景色に歓声を上げ、乗員から艦内各部の説明を聞きながら艦橋や甲板で熱心に質問するなど見学を楽しみました。

参加者の中には、一般曹候補生1次試験を受けてきたという大学生や「現在、調理師学校に通っていますが、自衛隊入隊を検討しています」と話す参加者もいました。

ある大学生の女性は「これは横須賀の祖父の家にあったものです」と言って「護衛艦ゆうぎり竣工記念・平成元年2月28日」と書かれた古い写真を持参しました。写真を見た乗員たちは36年の艦の歴史に感慨深い思いを抱いていました。

2日目は、いつも艦艇見学イベントに来ている小学生の男子児童が今回も会場に姿を見せました。海上自衛隊の大ファンで「一番好きな護衛艦は『いずも』で将来は海自に入って砲雷長になるのが夢」と話す男児が、大谷本部長に自分で描いた護衛艦と輸送機の絵をプレゼント。「また来ます」と手を振りながら帰る未来の自衛官を、隊員たちは笑顔で見送りました。

艦橋から見た横浜の風景

Going! PCO

宮城

令和6年度予備自衛官中央訓練に参加して

宮城地方協力本部　予備3等陸曹　末永　百合子

5月22日から27日までの間、私は朝霞駐屯地、市ヶ谷駐屯地、東富士演習場で行われた中央訓練に参加しました。予備自衛官補の一般公募から予備自衛官に任官した私は、この70周年の節目に選ばれるとは全く予想していませんでした。

22日に着隊し、同室の仲間と話をしながら翌日からの訓練に備えました。

初日は健康診断を受け、年齢的に血圧が気になりましたが問題なしでした。久しぶりに迷彩服に袖を通し、これから始まる訓練に期待と不安が入り混じった気持ちでした。

2日目は市ヶ谷駐屯地で初めて制服を着用し、記念館を見学しました。陸上幕僚長の訓示を受け、能登半島地震での災害派遣で活躍した方々の話を聞きました。

特に、お笑い芸人の「ちゃっぴいちゃんズ」の上岡千夏即応予備2等陸曹の話には心を打たれ、自衛隊の使命の重さを改めて感じました。

3日目は今回のハイライトである総合訓練が行われました。無線機の使い方、担架の扱い方、チェーンソーなどの操作を学び、実際の倒壊家屋からの捜索救助訓練を行いました。要救助者への声かけや報告要領を学び、今後の訓練に活かせる多くの知識を得ました。また、初めてCH-47輸送ヘリコプターに乗るという貴重な体験もしました。

4日目はバスで東富士演習場に移動し、総合火力演習を見学しました。

実弾射撃の衝撃波を体感し、自衛隊の防衛力を実感しました。

夜は明治記念館での予備自衛官制度70周年記念祝賀会に参加し、木原防衛大臣から激励を受けました。

5日目は被服返納と離隊式が行われ、また10年後に再会しようと約束し、共に過ごした仲間と別れました。

この中央訓練に参加した5日間は、予備自衛官としての使命と責任を改めて実感する貴重な時間でした。

今後の招集訓練でも、この経験を最大限に活かしていきたいと思います。

最後に、訓練を数年間見守り、この中央訓練に推薦してくださった地本の担当官と受け入れ部隊の皆さんに深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

末永予備3曹と木原大臣

宮崎

候補生の行進訓練を支える家族と地域
家族と地域の応援で完歩を達成

宮崎地方協力本部小林地域事務所は5月31日、西都地区の協力団体（自衛隊家族会、防衛協力会女性部会など）40人と宮崎県出身の隊員家族14人と共に、陸上自衛隊第24普通科連隊教育隊の一般曹候補生52人の25km行進訓練を激励し、出迎えました。

この日、候補生たちは雨の中、午前8時にえびの駐屯地を出発しました。区隊ごとに隊列を組み、胸を張り、しっかりと歩調を合わせ元気よく訓練を開始。行進中は、互いに声を掛けて励まし合い、地域の方々からの激励に笑顔で応え、雨が時折降る中、雨や汗でびしょ濡れになった迷彩服と半長靴で歩き続けました。

激励に駆けつけた稲田2等陸士の母親は「歩き始めたばかりで25kmも完歩できるのか心配ですが、雨にも負けず最後まで頑張ってほしい」と話していました。

大休止地点の手前では、協力団体を代表して防衛協会女性部員と西都地区出身の隊員家族が、候補生たちに飴やチョコレートなどの詰め合わせを差し入れしました。突然の激励に候補生たちは驚いた様子で「ありがとうございます」と元気よく応え、それまでの行進訓練の疲れも一気に吹き飛んだようでした。

また、応援に駆けつけた防衛協会女性部の手作り横断幕と幸に貼り付けたメッセージが、とても印象的でした。

午後4時頃、候補生たちは駐屯地に続々と到着し、待ち受けていたえびの駐屯地の隊員や協力団体、家族の盛大な拍手と歓声で迎えられました。候補生たちは疲れながらも堂々とした姿で全員が完歩し、25km行進訓練は終了しました。

雨の中、行進する候補生を激励

大阪

近畿地区合同企業説明会に参加
退職予定隊員と企業が将来を見据えた交流

大阪地方協力本部は6月17日、大阪府立国際会議場で自衛隊援護協会大阪支部が主催する「令和6年度近畿地区合同企業説明会」に参加しました。

この説明会には、任期満了に伴い退職を予定し、大阪府、兵庫県、奈良県および和歌山県での就職を希望する全国の陸・海・空自衛官226人が参加しました。

企業側も近畿地区に所在する207社が参加し、会場は熱気に包まれました。

面談時間が始まると、任期制隊員は自当ての企業ブースに向かい、企業担当者から業務内容や処遇、退職自衛官の活躍ぶりなどについて説明を受けました。

任期制隊員は25分交代で1人当たり8社の面談に参加し、将来を見据えた熱心な態度で積極的に質問をしていました。

メモを取りながら真剣に耳を傾ける姿も見られ、説明会は大変有意義なものとなりました。

また、任期制隊員の任期満了後の就職援護に関する取り組みについて理解を深めるため、高等学校などの進路指導教諭や自衛官募集相談員を招待し、企業説明会の実地研修を行いました。

参加者からは「多様な業種の企業が参加していることにとても感心した」「任期制隊員の就職援護制度を説明すれば、安心して入隊してもらえると思う」といった肯定的なコメントが寄せられ、今後の関係性の強化や、教諭および募集相談員の活動の活発化に手応えを感じました。

今後は、インターンシップを通じて希望する企業への訪問や工場見学などを積極的に企画し、企業の現場の雰囲気や労務環境、業務内容などについて理解を深める機会を設けるよう調整を進めていきます。

熱心に説明を聞く任期制隊員

徳島

令和6年度就職補導教育を開催
退職予定自衛官への再就職支援

徳島地方協力本部は6月14日と15日の両日、陸上自衛官および海上自衛官16人を対象に令和6年度就職補導教育を実施しました。

この教育は、令和6年度に任期満了で退職予定の隊員に対し、社会・雇用情勢、職業選択に必要な知識および再就職の心構えなどについて教育し、再就職に対する意識の向上を図ることを目的としています。

初日は海上自衛隊徳島航空基地で、徳島地本と県内に所在する海上自衛隊部隊（徳島教育航空群・第24航空隊）と合同で実施されました。

徳島文理大学の講師によるビジネスマナー教育やハローワーク鳴門の職員による応募書類の作成・面接講習などを通じて、ビジネスにおける正しい作法や態度、面接での成功率を高めるためのコミュニケーション能力の向上が図られました。

2日目は四国大学交流プラザ（徳島市）に場所を移し、徳島労働局が主催する「徳島就活フェア」（就職面接会・説明会）に参加しました。

このフェアは、徳島労働局との連携強化の施策として令和6年度に初めて実現したもので、退職予定隊員が就職活動中の大学生や25歳未満の同年代の人々と共に、参加企業のブースを訪問し、企業が求める人材などについて説明を受ける実地研修を行いました。

教育を受けた隊員からは「教育資料が工夫されており理解しやすかった」「ビジネスで必要な礼儀や言葉遣いを学び、勉強になった」「面接講習では実践形式で個別に良い点や悪い点を指摘してもらい、大変参考になった」などの声が寄せられました。

ビジネスマナー教育を受ける隊員

静岡

令和6年度富士総合火力演習に参加
迫力の実演と現場のリアルを体感

静岡地方協力本部は5月26日、御殿場市の陸上自衛隊東富士演習場で行われた令和6年度富士総合火力演習に、県内の学生など19人を引率しました。

演習の前半では、陸上自衛隊の最新装備品が次々と登場し、その性能が披露されました。

戦車や機動戦闘車などが土煙を上げながら観覧席の前に現れ、遠くの山の斜面に設置された目標に向けて実弾射撃を行いました。

参加者たちは射撃の轟音と体に響く振動、そして命中精度に圧倒され、また、演習場の地形を利用してさまざまな場所から現れる装備品の数々にも驚きの声が上がりました。

後半では、島しょ部防衛を想定した実戦的なシナリオが展開されました。

地上と空から各部隊が連携して展開する様子が示され、指揮所の映像や飛び交う無線の音声が緊迫した現場の雰囲気を伝えました。

さらに、ドローンを用いた情報収集の様子を含め、現代戦における技術の進化を間近で実感しました。

この総合火力演習の見学を通じて、参加者たちは、装備品の威力だけでなく、通信や情報を駆使した戦術、装備品を扱う隊員の高い技術、そして陸上自衛隊の多様な装備品がどのように連携して作戦を遂行するかを学びました。

また、装備品を扱う隊員の高い技術に支えられた自衛隊の真の実力を肌で感じ、より深い理解を得ることができました。

実弾射撃に圧倒される参加者

山形

公務員合同説明会で広がる進路選択
市役所、警察署、自衛隊が参加した説明会を開催

山形地方協力本部米沢地域事務所は5月25日、米沢市すこやかセンターで米沢市役所、米沢警察署、自衛隊による合同説明会を開催しました。

この説明会は、次年度の募集対象者が早期に情報を収集し、公務員就職希望者に併願受験の選択肢を広げることを目的としています。

この日は、大学生など18人の募集対象者とその家族が参加しました。

始めに、各機関がスライドを用いて仕事の概要、魅力ややりがい、充実した福利厚生などについて説明しました。地本からは、自衛官だけでなく事務官についても紹介し、防衛省の一般職・専門職について説明を行いました。

その後、機関ごとの相談ブースでは、広報官や陸上自衛隊東北方面後方支援隊の女性リクルーター、および地本の事務官が参加者の相談に応じました。参加者からは「試験科目について詳しく知りたい」「入隊・入省して感じたギャップはありましたか？」など、多くの質問が寄せられました。それらの質問に丁寧に回答することで、自衛隊全体に興味を持ってもらうことができました。

相談に応じる隊員と事務官（左）

熊本

総合訓練見学で新隊員の成長を実感
家族と募集対象者が訓練を見学

熊本地方協力本部は6月10日、黒石原演習場で実施された陸上自衛隊第42即応機動連隊の総合訓練に、新隊員の家族と募集対象者など18人を招待し、見学を行いました。

当日の午前中は雨天でしたが、午後からは太陽が出て、適度な風も感じられる心地よい見学日和となりました。

見学は北熊本駐屯地業務隊司令業務室による訓練内容の説明から始まりました。

陸上自衛隊での専門用語をなるべく使わず「ほふく前進」などの実演も交えた分かりやすい説明でした。

参加者は当初、訓練の様子を後ろから見学していたため、家族は「なんとなく右がうちの子の声のような気がする」と自信がなさそうでしたが、訓練終了後、水分補給をしている新隊員を遠くから見て「あの歩き方はうちの子の歩き方だ」と確信したようで、うれしそうな表情を浮かべ眺めていました。

新隊員たちが水分補給を終え、家族や募集対象者のところへ来ると「たくさん汗かいたね、頑張ったね」や「耳の中までドーラン塗るんだ、すごいね」などと、初めて見る迷彩服姿で偽装を施したわが子や先輩との久しぶりの会話を楽しんでいました。

参加者からは「高校の先輩が自衛官として頑張っていて、尊敬します」「声だけでは本当にうちの子か自信がなかったけど、会えて自分かったです」との感想がありました。

家族や後輩との記念撮影

栃木

地域と自衛隊との絆を深める体験
自治体職員が挑んだ自衛隊隊内生活体験

栃木地方協力本部真岡募集事務所は6月18日と19日の両日、陸上自衛隊宇都宮駐屯地で芳賀町職員12人と茂木町職員8人の計20人を対象に「自衛隊隊内生活体験」を支援しました。

この体験は、自衛隊の訓練や日常生活を通じて自衛隊と地域の連携や団結力の重要性を学ぶことを目的としています。

体験初日は入隊式から始まり、基礎訓練（基本教練、救急法、特殊降下体験）が行われました。2日目は災害派遣を想定した訓練が実施され、参加者は隊員と同じように起居や宿泊を体験しました。

迷彩服を着た参加者たちは、初めは緊張と不安を抱えていましたが、訓練が進むにつれて担当自衛官の優しいサポートと集団生活にも慣れ、楽しみながら体験している様子が見られました。特に特殊降下体験では、高さ7mの訓練塔からの降下に挑戦し、2回目の降下訓練を終える頃には「体力的にも精神的にも大変でしたが、限界に挑戦し達成感を得ることができました！」と笑顔を見せる参加者もいました。

2日目は、災害派遣活動を想定し、救急法なども含めた総合的な体験が行われました。災天下の中でも参加者同士が励まし合い、無事に終了することができました。「目標達成のために仲間と協力することの重要性を学びました。この経験を防災や地域の安全対策に活かしていきたい」という声が多く寄せられました。

炎天下での災害派遣活動訓練

福島

全校生徒対象の防災教室を支援
184人が実践的な防災体験

福島地方協力本部白河地域事務所は5月24日に玉川村立玉川中学校で防災教室を支援しました。

この教室は、自衛隊の防災に関する活動や防災技術などを実際に体験することで、災害時に役立てることを目的に行われ、全校生徒184人が参加しました。

学校からの「生徒自らができる行動を体験させてほしい」という要望を受け、グループごとにロープワーク、担架の作成を含む救急救護、テントの設営、土のう作成および運搬、防災ボードゲーム、装備品などの見学を順次行い体験しました。

生徒たちは、ほとんどが初めて体験することばかりであり、興味津々の様子でお互いに協力しながら積極的に行動していました。

特にロープワークや担架の作成では、日常的に使えるロープの結び方や救急救護の際の道具が身近にある物で作成できることを体験を通して理解しました。

土のう作成やテントの設営では、生徒ごとに決められた役割を果たし、協力して初めて完成させることができることを学びました。

また、広報官の進行のもとで行った「防災ボードゲーム」では、発災後さまざまな状況に応じた避難所の運営をゲーム感覚で体験しながら効率の良い運営方法について生徒同士で活発に意見交換をしました。これにより、避難所運営の難しさを体感し、生徒たちの防災意識をさらに向上させることができました。

テント設営中の生徒と広報官

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　髙橋　隆志(たかはし　たかし)
◇電　話 :03－5227－2468　（平日 09:00～16:00）
◇メール :jkazokuka@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治　雅和(かじ　まさかず)
◇番　号 :080－4630－8987　（平日 09:00～16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名(匿名可)」「所属家族会(部隊等)」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役職・氏名	担当内容
家族会運営委員(陸自OB) 手塚　信一(てづか　しんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に陸上自衛隊)
家族会理事(海自OB) 鍛治　雅和	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に海上自衛隊)
家族会理事(空自OB) 荒木　淳一(あらき　じゅんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に航空自衛隊)
家族会副会長(陸自OB) 宮下　寿広(みやした　としひろ)	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　髙橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！